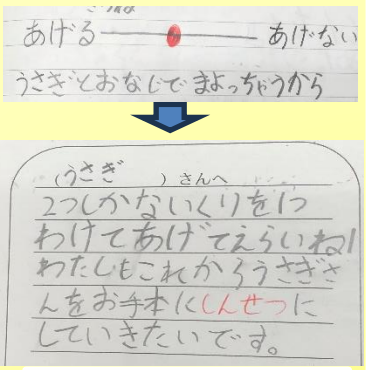
学　年	教科等	主題名及び教材名	日　時
第２学年	道徳科	あたたかい　心（「くりの　み」）	令和５年 10 月 13 日（金）５校時
研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成		
研究内容１の手立て	**【道徳的問題を「自分事」として考えるための手立ての在り方】** 子どもは、嘘をついたきつねと、栗の実を分けたうさぎを比較し、きつねのことを悪く捉えてしまう可能性がある。しかし、寒い冬を生きていくためには、食料は重要であり、きつねの考え方も共感的に考えることもできる。そこで、うさぎが栗の実を分けるか悩んでいる場面に着目させ、子どもに「自分だったら分けますか？」と問うことで、自分だったらどうするかを考えさせる。自分事として考えさせることで、「きつねは悪い」という考えから、「親切にすることは簡単なことではない。」と、親切についての考えを深めることができるようにする。		
研究内容２の手立て	**【子どもの多様な考えを引き出し、多面的・多角的に考えさせるための手立ての在り方】** 本時においては、親切にすることの大切さやよさについて、多面的・多角的に考えることができるようにしていきたい。親切にすることの大切さやよさとは、親切にする側とされる側の両方の立場から考えていく必要があると考える。そのため、うさぎが栗の実を渡す場面の役割演技をし、双方の心情を考える活動を行う。教材文では、きつねが涙を流すという記述で物語が終わっている。その後のきつねの言動については、子どもが自分なりに考える必要がある。役割演技をした後に教師が問い返しを行うことによって、親切にされたきつねの気持ちや、親切にしたうさぎの気持ちを考えられるようにするとともに、双方の気持ちを構造的に板書することで、親切にすることの大切さやよさについて、多面的・多角的に考えることができるようにする。		

○　子どもの姿からの報告

道徳的問題を「自分事」として考えるための手立て

「自分だったら分ける？」



【ふりかえりの記述】

「あなたなら２つしかない栗を分けますか？」と問うと、やはり子どもたちは悩むような反応が見られた。一人一人の価値観によって、「かわいそうだからあげる。」「食べ物が必要だからあげないかな。」等、多様な意見が出された。

ある子どもは、どちらにするか迷うと記述していた（左のノート）。その後のふりかえりでは、１つ分けたうさぎに対し、「えらいね。」「うさぎさんをお手本に親切にしていきたい。」と述べている。この記述は、自分の栗を分けるか迷う気持ちと、うさぎが栗を分けた行動を比較しているのではないかと考える。

自分事として考えることで、きつねの考えに共感するというよりも、うさぎの親切な行動に対する見方がより深まったのではないかと考える。子どもの姿を見ると、教師のねらいとする姿とのずれがあるため、今後は、子どもの反応をより細かく予想し、ねらいに迫ることができるような、応答予想を計画していきたい。

子どもの多様な考えを引き出し、多面的・多角的に考えさせるための手立ての在り方

役割演技

【栗の実をあげる場面の役割演技】

親切にすることのよさには、された側だけではなく、する側も嬉しい気持ちになるというところがある。そこで、役割演技を終えた後に、きつね役とうさぎ役の２人に気持ちを聞き、板書を行った。その板書を見た子どもから、「親切って心のブーメランだね。」という発言が出された。このような気付きをした子どもは、親切について多面的・多角的に考えることができているのではないかと考える。

授業後のふりかえり記述（A 児）

きつねさんは、うさぎさんが親切にしてくれてよかったね。私は親切にしてもらった方が多いけど、このお話で、「もっと親切にしよう。」と思ったよ。きつねさんも、お友達に親切にしてみると心のブーメランでかえってくるよ。

【ふりかえりの様子】

○　考察

○　研究内容１について

本時は、スケールチャートを使った話合い活動と、役割演技を行った。どちらも、「自分だったらどうするか。」と自分事として考えるための有効な手立てではあるが、45 分間の授業のなかでは、活動量が多くなりすぎてしまったという反省がある。学習活動の精選を行い、子どもの考えをより深める時間や、自分の生き方について見つめ直す時間を充実させるよう、タイムマネジメントやねらいを明確にする必要があった。

○　研究内容２について

本時では、栗の実を渡すかどうか迷う場面について話合い活動を行った。しかし、２年生の「親切、思いやり」の内容項目を考えた場合、迷うかどうかを考えることが重要ではなく、うさぎの親切な行動について、じっくりと考えることの方が大切であったと考える。こどもの実態と内容項目やねらいの分析、教材分析をしっかりと行い、何について多面的・多画的に考えるのかというところを明確にしながら、指導計画を作成していきたい。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1　日常に起こり得る場面で自分がとるであろう行動を考え、問題意識をもつ。 ○　折り紙を忘れて困っている仲間に自分の折り紙を分けますか？ ・　折り紙をたくさん持っているときは？ ・　２枚しかないときは？ ○　学習テーマ 親切にすることって大切？	○　日常に起こり得る場面のイラストを提示し、自分がとるであろう行動を考えられるようにすることで、親切にすることのよさや難しさについて問題意識をもてるようにする。
2　読み物教材「くりのみ」を視聴し話し合う。 ○　きつねとうさぎの言動について ◇　きつねが嘘をついたのはなぜ？ ・　寒い冬をのりきるため。 ・　正直に言うと、自分の食べ物が減るから。 ・　どんぐりを独り占めしたかったから。　等	○　イラストを動かしながら教材文の範読をすることで、物語の内容を理解しやすくするとともに、寒い冬を過ごすためには食料が大切であることにも気付くことができるようにする。 ○　嘘をついた理由を問うことで、きつねの心には、「独り占めをしたい。」「分けたくない。」という気持ちがあったことに気付くことができるようにする。
◇　うさぎはしばらく何を考えていたの？ ・　きつねさんがかわいそうだな。 ・　私のくりをあげようかな。 ・　きつねさんを助けたい。 ・　２つしかないからどうしようかな。　等	○　しばらくうさぎが考えていたことを問うことで、きつねを助けたいという気持ちと、自分の食料を確保したいという気持ちの間で葛藤するうさぎの気持ちに気付くことができるようにする。 ○　状況を整理したうえで、「自分だったらくりのみをあげますか。」と問い、立場やその理由考えさせることで、親切にすることには難しさもあることに気付くことができるようにする。
○　きつねとうさぎの心情について ◇　どうしてきつねは涙したのかな？ ・　うさぎさんが優しくしてくれたから。 ・　嘘をついたことを反省したから。 ・　嘘をついたぼくにも優しいから。　等 ◇　うさぎはどんな気持ちですか？ ・　きつねさんが喜んでくれて嬉しいな。 ・　困った時は助け合おうね。　等	○　くりのみを渡す場面の役割演技を行うことで、きつねやうさぎの気持ちを共感的に考えることができるようにする。 ○　きつね役、うさぎ役の子どもに気持ちを問い、親切にする側とされる側の気持ちを構造的に板書することで、親切にすることの大切さについて考えを深めることができるようにする。
3　教材を基に、自分自身をふりかえる。 ○　登場人物のように親切にされたり、親切にしたりした経験について。 ・　鉛筆を忘れて困っていたから、自分の鉛筆を貸してあげたよ。 ・　分からない問題を教えてもらったよ。	○　「うさぎさんやきつねさんのように、親切にしたりされたりしたことはあるかな。」と問い、その時の気持ちを問い返すことで、親切にすることの大切さについて考えることができるようにする。
4　お手紙を書き、主題についての考えをもつ。（★） ○　きつねとうさぎにメッセージを書く。 ・　どんぐりを隠す気持ちも分かるよ。最後に涙するきつねさんも優しいね。 ・　うさぎさんは優しいね。私もこれからは困った人に優しくしていきたいな。　等	○　机間指導をしながら、親切にすることの大切さや、自己の生き方について考えている子を把握し、意図的指名をすることで、親切についての考えが深まるようにする。

○　本時の評価規準

きつねとうさぎの心情の変化等について考えたり、これまでの親切にされた経験等をふりかえったりしながら、これからは自分も互いに助け合っていきたいという思いを高めている。

【一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか】

○　本時の板書